

令和4年第9回産業建設常任委員会 要点記録

開閉会日時		令和4年11月25日（金曜日）		開会	9:58		会議場所		別海町議会 委員会室2・3	
				閉会	10:30					
委員の出欠		3 番	田村 秀男	出席	4 番	小椋 哲也	出席	8 番	松壽 孝雄	出席
		12 番	松原 政勝	出席	13 番	中村 忠士	出席			
出席説明員	産業振興部	産業振興部長		産業振興部次長		農政課長		商工観光課長		
		門脇 芳則	出席	佐々木栄典	出席	小野 武史	出席	田畑 直樹	出席	
		水産みどり課長		農政課主幹		商工観光課主幹		商工観光課主査		
		田村 康行	出席	上田 健一	欠席	岩口 裕昭	欠席	武田 妙子	欠席	
		農政課主査		農政課主査		水産みどり課主査		水産みどり課主査		
		武田 文吉	出席	西郷 博之	欠席	古里 達也	欠席	岩光 信幸	欠席	
	建設水道部	建設水道部長		管理課長		事業課長		建築住宅課長		
		伊藤 一成	欠席	松田 勝広	欠席	外石 昭博	欠席	川畑 智明	欠席	
		上下水道課長		上下水道課技術長		管理課主幹		建築住宅課技術主幹		
		谷村 将志	欠席	袴田 充輝	欠席	前道 陽司	欠席	山岸 英一	欠席	
		建築住宅課主幹		事業課主幹		事業課主幹		上下水道課主幹		
		篠田 敬介	欠席	廣島 静治	欠席	佐竹 和仁	欠席	福原 仁史	欠席	
		管理課主査		建築住宅課主査		事業課主査		上下水道課主査		
		木村 洋平	欠席	大西 廣和	欠席	板垣 正博	欠席	植松 拓也	欠席	
	農業委員会	農業委員会事務局長		農業委員会主幹		農業委員会主査				
		内山 宏	欠席	たも木 直人	欠席	山下 真弘	欠席			
委員外の出席							合計	0名		
事務局職員		局長	干場 富夫	主幹	入田 浩明		合計	2名		
傍聴者数		議員	0名	報道関係者	0名		合計	0名		

令和4年第9回産業建設常任委員会 要点記録

会議に付した事件及び会議結果など

発言者			会議経過 ※所管毎に議事を行う事情等により議事番号が前後することがある。
委員長	8番	松壽	9:58 開会 出席委員5名、委員外1名、会期1日 挨拶 【産業振興部所管事務調査】 挨拶 議事1 所管事務調査について (1)別海町酪農研修牧場について ・概要説明 ・資料により説明。 財務健全化を図る上で足かせとなっていた、短期借入金1億円を令和3年度から令和6年度までの4年間で償還することを株主間協議において決定し、負担割合に応じて償還をすることとしていたが、計画どおり令和3年度及び令和4年度分の5,500万円の償還を既に実行している。 現状の施設規模を維持したまま運営することが困難になる見込みであったことから、持続的研修機能の強化に係る提案書を策定し、共通課題認識のもと関係機関連携の上、取り組むこととしたが、提案書策定時には、ある程度の酪農情勢の悪化を踏まえた計画見込みとしていたが、今般のウクライナ情勢、円安、長引くコロナ禍による影響など急激に酪農情勢が悪化したことにより、研修牧場についても、その影響を大きく受ける形となった。 令和4年度から令和9年度までの見込みを提案書策定時と比較すると、飼料代で1億200万円の負担増、個体販売収入で5,600万円の収入減となり、飼料代と個体販売収入のみで比較しても、約1億5,800万円の影響が出る試算となった。 こういった状況を踏まえ、赤字化する研修牧場の今後の対策について、本年6月に開催した研修牧場の株主総会後、8月と9月の2回にわたり、株主である町と農協で組織する運営会議を開催し、現状と今後の対応策について協議を行った。 なお、早急な対策の一つとしては、本年11月から乳業興社との取引乳価を2円引き上げしている。 決算状況及び今後の見込みは、令和3年度については、飼料代の高騰等による影響もあったが、経費の削減努力を行ったほか、乳代が伸びたことや町及び農協からの支援もあったことから、単年度の黒字化を達成することができた。 しかし、令和4年度以降の見込みを再精査したところ、先ほど説明した影響もあり、令和3年度間で、1億1,400万円程度の赤字の見込みとなっている。 また、研修牧場は町営であることから、今後、国や道などが実施する飼料高騰対策等支援の一部は受け取ることができず、現状、研修牧場の自助努力だけでは、今後の赤字を補うことは不可能であると判断している。 このような状況を踏まえ、本年9月15日に株主である町長及び各農協組合長出席のもと、株主間で協議を行い、共通見解として、現状の酪農情勢では黒字化を達成することは非常に困難であるとの結論に達したところ。 研修牧場は、別海町の基幹産業である、酪農守るため、今後も必要な施設であることから、経営が安定するまでには、引き続き株主間で連携し取り組むこととした。 具体的には、昨年度実施した対策とは別に、令和4年度から令和6年度までの赤字分について、町が3分の2、農協が3分の1の負担割合で負担する方向で合意をしている。 ただし、本合意内容については、議会における予算の議決あるいは農協については、理
委員長	8番	松壽	
産業振興部長		門脇	
委員長	8番	松壽	
産業振興部長		門脇	
農政課長		小野	

令和4年第9回産業建設常任委員会 要点記録

		事会等での承認が大前提となる旨確認している。	
		町の対応としては、当初は、研修牧場が町の指定管理施設であることから、今般の酪農情勢の悪化による赤字に対する補填については、町と指定管理者である研修牧場との間で締結している別海町酪農研修牧場の管理に関する基本協定書の規定に基づき、赤字分も指定管理料として支払う方向で検討していたが、町が指定管理をしている施設については、第1実践牧場のみとなることから、第2実践牧場を除いた指定管理料の算出が非常に困難であることと、研修牧場全体の赤字に対する支援が十分にできないと判断したことから、株主間で協議の上、全体の赤字予定額に対し各負担割合に応じ、昨年とは別の負担金という形で支援する方向で調整を進めることとなった。	
委員長	8番	松壽	質疑
委員	13番	中村	・普通、乳飼っているのは費用の費じゃなくて、比べるでは。
農政課長		小野	・こちらの誤字については、訂正をさせていただく。
委員	13番	中村	・令和2年度の実績で乳飼比が37.5%ということだが、同じ令和2年度の実績で、道東あさひ農協の実績は全体の平均乳飼比が33.8%。
			それから見ると、大体同じくらいなのかなと思うが、どういうふうに見ているのか。
			前々から少し濃厚飼料の割合が多いと言われていたが、見直されていたのか。
農政課長		小野	・乳飼比の割合は、昨年の提案書策定時において、30%から40%ぐらいに抑えるということの中で計画をしていた。
			これは、一般的な農家の割合に応じた形で研修牧場も抑えるということで計画をしており、順調にそのような形で進む予定ではあったが、飼料の高騰等により乳飼比が上がるような現状となっている。
			また、濃厚飼料の割合については、飼料代が高騰にあって適正な資料の入配分がされているのか確認をしたが、研修牧場としては、適正な割合で行っているという回答があったので、その部分については、現場の意見等もあるので難しい面ではあるが、適正な濃厚飼料の配分であるとの回答はいただく。
委員	13番	中村	・今の回答を聞いていると、大体平均値と捉えているみたいだが、数字上はちょっと平均値より高いというここをどういうふうに捉えているのか。
農政課長		小野	・平均より高いのか低いのかについては、若干平均より高い部分があるので、乳飼比についてはなるべく抑えるような形の提案は各農協との意見交換でも出ている。
			その原因については、いろいろあるかと思うが、先ほど説明したとおり、やはりそこは牧場での飼料の配分の仕方があるということもあって、決して平均高いからだめだということにはならないのかなと思いますけれども、ただ、なるべく経費としてその部分は落とせるのであれば落とすという努力はしていくという形の研修牧場側からの回答はいただいた中で、提案書に沿って進めてきているというのが現状。
産業振興部長		門脇	・補足させていただく。
			道東あさひの平均ということであり、これは放牧主体で配合をあまり与えない農家やTMRセンターとかそれぞれの形態によって乳飼比の割合は違ってくる。
			そんな中で、研修牧場としてのやり方としてやっていた中で、こういう数字が出てきたということ。
			また、乳飼比を出すには、やっぱり乳代というものも当然絡んできて、乳代が平均100何円と超えてるようなところと、こちらは90円という中で収入が低い中での乳飼比の割合ということもありますし、ホクレンとの取引ではないので、乳業興社との個別取引となると、やっぱり乳脂肪分等の契約を下回るわけにはいかないというような中で、なるべく多めに配合をやらないと契約違反になる。
			ホクレンとの取引では、成分に応じた額になりますから、多少下回っても影響はでない

令和4年第9回産業建設常任委員会 要点記録

委員 13番 中村

かと思うが、個別の取引の中ではそういうリスクも背負うと言った中で、多少高いのではないかというような意見もあるが、研修牧場として精いっぱいやっているというところ。

・確かに乳価の関係が当然出てくるので、そこも一つはあるかなと思うが、飼料代が高騰してきている中で、これをどう乗り切るかっていうふうになった時に、やはり乳飼比の問題が問題になる。

今後、いかに経費を下げていくかが課題になるかなと思うが、そういう意味でもしっかりとらえて分析をして、そして今後に生かしていくっていうことが必要かというふうに思うが。

農政課長 小野

・そういったところも含めてしっかりと経営の改善をしていかなければならないということで、先ほど説明の中で、2点目と3点目については説明を省略したが、研修牧場をしっかり立て直すためには、乳飼比も含め、見直すべきところは見直すということで、今、計画しているのは、各農協からしっかりと人を出してもらってプロジェクトチームを組んだ中で、乳飼比も含めて再度見直すということで、年明けから行う予定で考えているので、いろんな経費の削減できるところはしっかりと削減をしていくということは、プロの目線からも見てもらった中でやっていくことで確認をしている。

委員 4番 小椋

・今後の計画で、飼養頭数が減るので乳量が令和3年の実績から令和6年度見込みだったら3分の1ぐらいになるというので、1点が乳業興社は、一般よりも安い価格で取引しているというのが、研修牧場の問題というより乳業公社の問題になっている部分もある。

乳業興社の受け入れの乳代というか、原材料費が高くなってしまうので、その辺は両方ともで町が指定管理してる施設なので、乳業興社側の対策も多分同時に並行して考えられると思うので、その辺どう考えているか。

2点目は、ここまで、研修牧場から出荷する牛乳が減ってしまうのであれば、乳業興社側の経営的には負担にはなるんですけども、ここを研修牧場として研修する新規就農者が、実際新規就農する時はホクレンに出荷すると考えれば、もう研修牧場の出荷もホクレンにしてしまって、乳業興社は少し原材料費上がってしまうけども、やっていくのかっていうことも含めて、どういうふうに考えているのか。

農政課長 小野

・まず、1点目の乳量が減ることによる乳業興社の影響、これは大きく出るということで試算もしている。

町にとって研修牧場も乳業興社も非常に大事な施設ですので、しっかり両輪で考えなければならない問題ということでは思っている。

今、恐らく乳業興社に対して研修牧場からの原料がこれだけ減ると影響額にすると3,000万円以上の影響が出るであろうという試算までしている。

その部分をどう埋めていくのかっていうことについては、今後、町が主体となってやはり考えていかなければならないと。

ただ、具体的にどうするかということまではあれですけども、足りない分は指定管理料として補っていくのかどうかというところは、今後しっかりと詰めていきたいなと思っている。

2点目の原料の調達というところで、ホクレンにという話だが、それも一つの案かと思うが、一方で研修牧場で絞られた生乳が乳業興社に行って、それが製品として形になって見えるということも研修牧場としての一つ売りの一つであるもので、そのところもいろいろと慎重に協議をしながら、何が両施設にとってベストなのかっていうところを見極めながら考えていきたい。

産業振興部長 門脇

・補足させていただく。

乳業興社に関しては、この計画策定時に将来的には600 t まで落ちるということで確認できてまして、シミュレーションをしている。

確かに厳しい経営になるが、高いがホクレンから購入にして、会社を運営していくというこ

令和4年第9回産業建設常任委員会 要点記録

	とで、今ところ考えている。 それから、ホクレンへの出荷ということであると、研修牧場は農業生産法人ではないのでホクレンには出荷できないということで、今、乳業興社で受け入れられない分は全部雪印のほうに直接取引で70数円で行っているという現状なので、もともと建設した時からそういうインサイダーっていう取引ができないという中で、雪印にたたかれて売るよりは、町の構想としてこの東の北海道の果てから、市入荷戦略で売っていかうということで、乳業興社を立ち上げた経緯があるので、きちとしたどこで生産された乳で製品をつくっているということはホクレンでやった場合はできないので、必ず研修牧場でつくったトレーサビリティを含めて、それが売りの一つでもあるので、この辺を考えていかなきゃいけないと考えているところ。
委員 4番 小椋	・研修牧場の牛乳が乳業興社の牛乳のほとんどであれば、さっき課長が言ったようなこともあるんですけど、もう購入になってしまうような形に、直接取引を今3件やってるところを増やす方向でいくのか、どうするのかというのは今後ちょっと研修牧場じゃなくて乳業興社側の調査の時に詳しくと思いますけれども、ただ、今、乳業興社が取引している先が、学校給食とコープだったり東武だったりっていうのをみても、結構売ってる牛乳のラインナップの中で低価格商品になってきているのがちょっと懸念していて、今後、ブランドの建て直し等々、とにかく給食は、やっぱり地域に牛乳を飲んでもらいたいというのもあるから、そこに対しては手立てするとかいろんなやり方あると思うんで、ちょっとその辺の乳業公社の方は今後、また委員会として検討事項になってくるのかなっていうのは、研修牧場と両輪なので、研修牧場のこういうふうに大きな変革する時には、乳業興社も必要かなっての感じてたので、今の説明はいろいろとわかった。 研修牧場だけで言うと、今、農業生産法人じゃないからホクレンにできないっていうのは、例えば研修部門は研修部門で指定管理に指定して、農業生産法人が指定管理を受けるのは法律上できないとあるのか。 今、研修牧場の会社が農業生産法人になってないから、農業生産法人に変えとか農業生産法人を立ち上げてそこにやってくっていう手当もあるのかなと思ったりして、すぐ切り替えるとかの話ではなく、どういうルートがあり得るのかなっていうのはちょっと検討が必要なのかなというふうに感じたところ。
農政課長 小野	・運営会議の中でもそういった議論がすごく出てまして、やはり適切な乳価でないということも含めて、いろいろな議論が出ている。 令和6年度までの見込みということで説明させてもらうが、令和7年以降このままでいいのかっていうところも含めて、プロジェクトチームを組んでしっかりやると。 もちろん、こういう研修施設っていうのは北海道いろいろありますけども、本来は研修部門でやはり赤字になる。 ただ、赤字の部分で牧場部門の生産で補うというのが一般的なやり方になるので、今後の方向性というのはそういったことも含めて、生産性のある程度こちらの方で持たして、先ほどの農業法人のことも含めてどうするのかっていうこと。 できるかできないかというのは状況よと思うので、それも含めて今後協議として、最重要課題として検討をこれから始めるので、そういった協議の内容・進捗については委員会の場で御報告させていただきたいと考えている。
委員長 8番 松壽	・他に質疑あるか。
委員 一同	・質疑なし
委員長 8番 松壽	その他
農政課長 小野	・10月31日に開催された臨時会において、物価高騰に伴うこの水道料の減免予算が採決され、同日付けで農業生産資材高騰対策に関する請願書の採決もあったので、現状の農業生産資材の高騰に対します町取組みについて、若干補足という部分でさ

令和4年第9回産業建設常任委員会 要点記録

せてもらう。

今回の水道料の減免については事業者を対象としており、他の事業者1カ月分の減免のところ、農業関係は3カ月分の水道使用料の減免と昨今の酪農情勢を踏まえて支援を拡充したところ。

こちらについては、9月に採決された水道料金の基本料金と合わせると総額で8,800万円の支援となる。

現在、生産資材の高騰あるいは固体販売の下落など、酪農業ではかつてないほど大変な状況になっているということは、町も十分認識している。

今回の水道料の減免については、酪農を営む方への直接的な支援策として、生産資材と同様、固定経費に対する負担軽減につながるものと考えておりますけれども、今後、新たな対策についてもしっかりと国や道の動向及び近隣市町村、こういった動向もしっかりと見据えた中で、財源も含め慎重に検討していきたいと考えている。

委員長	8番	松壽	閉会挨拶
委員長	8番	松壽	10:30 閉会